

生活者通信

■発行 東京・生活者ネットワーク
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階
TEL03-3200-9189 FAX03-3200-9274 ■Eメール tokyo@seikatsusha.net
■ホームページ http://www.seikatsusha.net ■発行責任者 西崎光子
■定価 年間1000円・1部100円 ■郵便振替口座 00130-3-18417
■2013年2月1日（毎月1回1日発行）1994年5月23日第三種郵便物認可



大田区 なす・りえ
奈須りえ



練馬区 やない・かつこ
やない克子



世田谷区 にしざき・みつこ
西崎光子 都議会議員



杉並区 こまつ・ひさこ
小松久子



昭島市 ほし・ひろこ
星ひろ子 都議会議員



国分寺市・国立市 やまうち・れいこ
山内れい子 都議会議員



市民が育てる

東京・未来

長い間、日本経済の中心地として企業優先の都市づくりを進めてきた東京を、人々にとって暮らしやすいまち、自治するまちに変えるのは市民の活動と、それを応援する都政です。

東京・生活者ネットワークは53人の女性議員をもつローカルパーティです

生活者ネットワークは東京都内33の区・市にあり、それぞれの地域課題に取り組むと同時に、区や市をこえた「東京問題」には全体で取り組んでいます。50人の区・市議会議員、3人の都議会議員とともに、生活の中にある問題を政策化し市民とともに解決します。慣例に縛られている議会を市民の視点で変え、東京を「生活のまち、暮らしやすいまち」にするために活動しています。

生活者ネットワークの議員はローテーション

生活者ネットワークの議員は、長くても3期までのローテーション制をとっています。議員を長く続けていると、どうしても情報や権限が議員に集中し、議員に「お任せ」という構図になりがちです。それでは市民の政治参加、市民自治のまちづくりは育っていきません。ローテーション制を設けることで「政治改革」を自ら実践し、だれでもが議員になれるしくみをつくることで市民の政治参加をうながします。

生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています

生活者ネットワークの活動は、市民のカンパで支えられています。議員報酬も市民の政治活動資金に活かし、お金の流れは公開します。

選挙はすべて手づくりで

選挙はカンパとボランティアの手づくりです。

生活者ネットワークの活動を応援します

- 天笠啓祐 科学ジャーナリスト
- 安深遊地 在宅福祉サービスNPO理事長
- 池口葉子 元都議会議員
- 池田敦子 映画監督
- 井筒和幸 神田川ネットワーク代表
- 伊藤久雄 認定NPO法人まちぼろ理事
- 今井一 市民外交センター代表/恵泉女学園大学教授
- 上村英明 ジャーナリスト
- 内山 節 市民外務センター代表/立教大学教授
- 遠藤保男 水源開発問題全国連絡会共同代表
- 大嶽貴恵 環境まちづくりNPOエムエス理事
- 大友信勝 中部学院大学人間福祉学部教授
- 沖藤典子 NPO法人東京ユニレ理事
- 奥地圭子 NPO法人代表
- 片岡 勝 映像作家「六ヶ所村アンダー」
- 鎌仲ひとみ NPO法人市民シンクタンクひと・まち社代表理事
- 神山美智子 NPO法人日本国際ボランティアセンター(JVC)理事
- 工藤春代 市民福祉サポートセンター運営委員
- 熊岡路矢 NPO法人ほっとコミュニティ代表理事
- 栗木寛子 NPO法人コミュニティスクール・まちデザイン理事長
- 毛塚香恵子 認定NPO法人まちぼろ理事
- 近藤恵津子 人材育成コンサルタント
- 佐々木貴子 政治家/法政大学教授
- 辛 淑子 市民運動全国センター代表世話人
- 杉田 敦 アンソニーター
- 須田春海 NPO法人循環型社会研究会理事
- 高野 孟 未来バンク事業組合理事長/環境運動家
- 田中三彦 浪花の歌う巨人・パゼヤン
- 田中 優 NPO法人環境型社会研究会理事
- 趙 博 東京コミュニティバンク(東京CPB)理事長
- 坪井照里 絵本作家「ベリとペリ」作者
- 中川李枝子 福祉団体職員
- 中西正司 建築士/東京・森の学校
- 長谷川 敬 まちづくりプランナー/NPO法人川まちづくりハウス運営委員
- 林 泰義 評論家
- 樋口 憲子 気候ネットワーク東京事務局長
- 平田仁子 東京ワークス・コレクティブ協同組合理事長
- 星野弘子 NPO法人日本国際ボランティアセンター(JVC)特別顧問
- 星野昌一 NPO法人こども福祉研究所理事長
- 宮台真司 社会学者/首都大学東京教授
- 山下博由 員類多様性研究所長/日本生態学上関野書写タケケ委員
- 吉田由美子 生活クラブ生活協同組合理事長



森田明美 東洋大学教授・子どもの権利条例東京市民フォーラム事務局長



山口二郎 政治学者 北海道大学教授

子どもたちが自分の持つ力を発揮するには、それぞれの年齢にふさわしい快適な環境と機会が与えられなければならない。東日本大震災の影響、虐待やいじめの増加、子どもの貧困の深刻化は、子ども問題の解決を後回しにしたおとな社会の責任放棄といわれても仕方がないような状況になってしまっている。こうした時代であるからこそ、地域や家庭で子どもが育つことを支えるしくみづくりが急がれる。子どもの現実寄り添い、粘り強く取り組む生活者ネットの政治が今ほど求められるときはない。

昨年未の総選挙では、政治変革の歩みがまた振出しに戻ったような挫折感を覚えた。しかし、民主党への幻滅を民主政治への幻滅にしてはならない。民主党の挫折は、永田町だけの政治変革の限界を教えている。グラスルーツにこそ希望がある。東京・生活者ネットワークの奮闘が、暗い闇夜を照らす最初の曙光であることを切に望む。